

hand in hand

大曲支援学校
地域支援部
令和6年11月22日

「心のバリアフリー推進モデル地区における 障害理解の推進事業」について

地域支援部 丹波 舞子

令和5年度、令和6年度の2年間、大仙地区と内小友小学校、大曲支援学校がモデル校の指定を受け、事業に取り組んでいます。

この事業の目的は、「小学校と特別支援学校の交流及び共同学習に関連付けた障害理解授業や PTA 研修会等の実施により、小学生やその保護者、地域住民の障害理解を推進する」こととしています。

内小友小学校と大曲支援学校小学部は、「ハローの会」として学校間交流を続けてきており、今年度30年目を迎えました。この事業を「ハローの会」に関連させ、昨年度は内小友小学校において4年生の障害理解授業や PTA 研修会（ボッチャ体験）を実施しました。

また、オンライン交流を取り入れて交流の回数を無理なく増やしたり、実際の交流場面を両校の保護者の皆様に参観いただく機会を設けたりするなどの取組をしました。

さらに今年度は、両校の3年生が学習発表会予行を参観し、友達の頑張りを知り互いの学びを理解することができました。この事業を通して、長い交流の歴史に新たな側面を発見しているように思います。

両校の保護者の中にはハローの会の経験者もいらっしゃり、2世代に渡る交流の深まりが見られます。また、交流を参観した保護者から、「自然に関わり合う姿が印象的」という感想が多く聞かれ、地域における障害理解の深まりへの土台になっていると感じています。「ハローの会」のさらなる発展が楽しみです。



せんもんかんの部屋

ふくでん 福伝ROOM



校舎奥に見える福伝山
おおかわ やすひろ

教諭(兼)教育専門監 大川 康博

障害は会社に伝えた方がいいのか？

11月6日に「県南地区高等学校特別支援教育研修会」が横手高等学校を会場に開催されました。高等学校の教職員や労働、福祉関係者が集まり、高等学校の教職員の指導・支援及び校内支援体制の充実等について、講話やグループ別協議を通して理解を深めました。会の中で、横手公共職業安定所（ハローワークよこて）齊藤衛氏の話題提供の内容の一部を紹介します。

会社に障害等を伝える（オープンにする）

※R5ハローワークよこて作成

【安心できること】

- ・就職後の定着率が高い
- ・体調が悪い時に休みが取りやすい
- ・隠すストレスから解放される
- ・会社に相談できる
- ・支援者が職場内の調整をしやすい
- ・通院日や服薬時間を確保しやすい
- ・様々な支援が受けられる（障害者専用求人に応募、職場実習、ジョブコーチ、助成金 等）

【不安なこと】

- ・職場に理解のない同僚がいる場合がある
- ・理解のない職場に敬遠される場合がある
- ・職場で特別扱いされてストレスになることがある

会社に障害等を伝えて応募するためには、本人の自己理解や保護者の理解が必要です。引継ぎにおいては、「個別の移行支援計画」に基づいて、高等学校で行っている有効な支援方法や地域の関係機関によるサービス内容の情報提供を行い、卒業後の連携の在り方について協議します。支援に必要な範囲で本人の障害特性や配慮事項について情報を共有し、配属先での受け入れ体制を整えることで、職場定着と業務能力の向上が図られます。

～特別支援学校体験研修への申し込みをお待ちしています～

授業体験等を行い、指導計画や具体的な指導内容・方法等について研修することができます。ニーズに合わせて柔軟に対応しますので、ぜひ、お問い合わせください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭：北島 英樹（きたじま ひでき） 川越 真紀子（かわごえ まきこ）

教育専門監：大川 康博（おおかわ やすひろ）

地域支援部主任：丹波 舞子（たんば まいこ）

特別支援教育コーディネーター：熊谷 道大（くまがい みちひろ）青木 真知子（あおき まちこ）

特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子（おおさわ たかこ）（大仙市立花館小学校内）

〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字下成沢122

電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や依頼状の様式等は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。